



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3074 号 2016.6.12 発行

トレーラーハウス入居開始 益城町 要配慮者「家族の空間ようやく」 福祉避難所に利用【熊本県】 西日本新聞 2016年06月12日 益城町のグランメッセ熊本の駐車場に設置されたトレーラーハウス

益城町で、病気の人や妊産婦など要配慮者のいる熊本地震の被災世帯が、仮設住宅などに入居するまでの「福祉避難所」として利用するトレーラーハウスの入居が始まった。グランメッセ熊本（同町）駐車場に15台設置済みで、入居者からは「ようやく家族の空間ができ、周囲に気兼ねなく介助もできる」と喜びの声が上がる。町は今月末までには35台ほどに増やす予定。



災害時に配慮が必要な人を受け入れる「福祉避難所」不足に悩んでいた町が、完成した住居を車で引っ張って移動でき、簡単に設置できるトレーラーハウスに着目。日本RV輸入協会から有料でレンタルした。日本トレーラーハウス協会から3台の無償貸与も受けた。障害者のいる世帯など約200世帯の入居応募があり、選出された世帯から順次入居している。

設置されたトレーラーハウスは、各台20～30平方メートルの広さで、台所や浴槽、クーラーなどが備え付けられたものから、ロフトスペース付きのタイプまでさまざま。電気、水道、ガスも利用できる。

町内のテント村から、5月31日夜に家族4人と入居した女性（42）は、2段ベッドが2台備え付けられているハウスに満足の表情。「ベッドの布団に寝ることができてありがたい。先は長い、震災前の生活を少しずつ取り戻してきた感じがする」と話した。

ただ、一時避難所であるため、何度も引っ越す必要もある。「息子2人は受験生。早く安心できる環境に落ち着きたい」と、先の見えない生活に不安もにじませた。

大分) 竹田小が清明あけぼの学園にホテル贈る
ホテルが入ったかごを囲み、交流する児童や園生たち=大分市の清明あけぼの学園

障害児入所施設「清明あけぼの学園」（大分市）に11日、竹田小（竹田市）の6年生20人からホテル約400匹が贈られた。ホテルの受け渡しは64回目。

同学園は、主に視覚や聴覚に障害のある子どもが自活するのに必要な支援をする施設。当時の園長が

朝日新聞 2016年6月12日



1953年、入所者にホテルを見せたいと、竹田市の明治小にホテル取りを頼んだのを機に交流が続いている。学校統合後は竹田小が活動を引き継いだ。この日贈られたのは、竹田小の児童が9、10日、旧明治小周辺で採取した。

園生の田代知夏さん（17）は「きれいなホテルがまた見られうれしい」と話していた。（矢鳴秀樹）

住民反対で中止・延期、13保育園 自治体待機児童調査 藤田さつき

朝日新聞 2016年6月12日

■「住民との調整」による開園の中止・延期

	中止	延期	影響定員
千葉県市川市	1	0	108
東京都台東区	0	1	63
東京都世田谷区	0	5	455
東京都調布市	1	1	135
横浜市	0	2	75
神奈川県茅ヶ崎市	1	0	50
大阪府豊中市	1	0	120
合計	4	9	1006

「住民との調整」による開園の中止・延期

朝日新聞社が全国の主要82自治体を実施した待機児童調査で、今年4月に開園予定だったのに中止・延期された認可保育所などが、15自治体で計49園あったことが分かった。このうち「住民との調整」が理由だったのは、7自治体で計13園あった。子どもの声や車の通行量増加などへの懸念から住民が反対し、自治体に十分な説明を求める動きが広がっているようだ。

調査は20政令指定都市と東京23区、昨年4月時点で待機児童が100人以上いた39市町の計82市区町が対象。中止・延期があった49園で影響のあった定員は計3230人で、今年4月時点の待機児童数（約1万4千人）の約2割に上る。

理由で最も多かったのは、地中にある障害物の撤去などの「工事の遅れ」で20園。「住民との調整」の13園は2番目に多く、影響のあった定員は計1006人で待機児童数の7%ほどだった。建設コスト高騰による入札不調（7園）などを上回った。

保育所開園に相次ぐ「待った」 解消へ住民の理解カギ 藤田さつき

朝日新聞 2016年6月12日



東京都杉並区は、待機児童解消のため複数の公園を転用して保育所を一気に建設する計画だ。これに住民が反発し、公園の周りには反対を訴える横断幕が掲げられた＝10日

認可保育所などの整備に対し、都市部で住民から相次いで「待った」をかけられている実態が、朝日新聞社の主要82自治体への調査で浮かび上がった。待機児童問題が深刻で、自治体が各地で整備を急いでいる中で反発が出ていると見られる。住民の理解を得ることも待機児童

解消へのカギを握るようになっている。

「以前は住民から『説明が足りない』との声はあまり聞かなかった」。開園が中止・延期になった複数の自治体の担当者らは口をそろえる。今年4月開園予定の施設の建設を中止した神奈川県茅ヶ崎市は、住民の反対による断念は初めてだったという。担当者は「整備を進めるため、これまで進出していなかった住宅地にも建設するようになったためでは」と感じている。

老人ホームで入所男性殴る、傷害容疑で職員逮捕

読売新聞 2016年06月11日

勤務する徳島県松茂町の老人ホームで入所者の男性を殴るなどして重傷を負わせたとし

て、県警徳島北署は11日、同県鳴門市、介護職員（29）を傷害の疑いで逮捕した。

同署の発表によると、介護職員は4日午前8時30分頃、松茂町の住宅型有料老人ホーム「グループリビングももの苑」で、入所する男性（86）の顔を殴るなどし、硬膜下血腫、左手親指の骨折など、全治1か月の重傷を負わせた疑い。容疑を認めているという。

運営会社によると、男性の叫び声を聞いた別の職員が駆けつけて発覚した。施設は同日夜、男性の家族に連絡。県と町にも報告し、7日に同署に通報した。

介護職員は2011年11月から勤務。4日は午前6時から働いていた。施設の聞き取りに対し、介護職員は「オムツを替えようとした際に男性が暴れたため、殴った」と説明したという。運営会社は5日から1週間の出勤停止とし、改めて懲戒解雇とする方針。

運営会社の社長は「被害者、家族に誠意をもって対応するとともに、再発防止に努める」と話している。

バチカンでハンセン病シンポ 元患者の石田雅男さん「残酷な歴史繰り返さない、忘れてはならない」と訴え 共同通信 2016年6月12日
9日、バチカンで開催されたハンセン病シンポジウムに出席した石田雅男さん（右）（共同）



ローマ法王庁（バチカン）で開催されたハンセン病国際シンポジウムで10日、岡山県瀬戸内市の国立療養所「長島愛生園」で暮らす元患者の石田雅男さん（79）が自らの体験を語った。石田さんは「残酷で悲惨な歴史を繰り返さない、忘れてはならない」と訴え、日本にある全てのハンセン病療養所の世界遺産登録を目指していると述べた。

ハンセン病はらい菌による感染症。感染力は極めて弱いが、日本では明治時代に隔離が始まり、1931年の旧「らい予防法」で強制隔離が法制化され、96年の法律廃止まで続いた。

石田さんは10歳で発病し長島愛生園に入所。薬によってハンセン病が治る病気と認識されるようになり、「人間らしく生きたい」と仲間たちと「人権闘争」に取り組んだ活動を紹介した。

駄菓子屋 世代超える絆 読売新聞 2016年6月12日

◇小規模多機能ホーム 「ぶどうの家」 津田由起子代表
練り梅、串刺しのスルメ、棒付きキャンディー……。品定めする子どもたちをお年寄りが見守る。通所、訪問、宿泊の介護サービスを提供する小規模多機能ホーム「ぶどうの家」（倉敷市船穂町船穂）内にある駄菓子屋「菓々子」。オープンから2か月がたち、同家の津田由起子代表（51）に店に託した思いなどを尋ねた。（聞き手・立山光一郎）



—なぜ、駄菓子屋を開いたのですか。

施設では職場体験学習のほか、餅つきや夏休みのボランティア体験といった行事で、子どもたちと交流してきました。けれど、どうしても子どもたちが身構えてしまう。もっと自然な形で触れ合う方法はないかと考えていると、やりたいという職員が現れたのです。お菓子を買っていくとたまたまお年寄りがいて、いつしか知り合いになればと期待しています。

—店内の様子は。

お年寄りは座っているだけの人もいれば、お菓子を袋に詰めて渡したり、会計を手伝っ

たりしてくれる人もいます。新聞紙の買い物袋や手編みのひもなどお年寄りの手作りの品を見せると、子どもたちは「すごい」と感心。作り方を教えてと言う子には、「作ったおばあちゃんにあいさつする？」と誘います。

—何か変化は。

特別なことが起きることを期待してはなりません。年を取っても、地域の人たちと一緒に暮らせる住みやすい地域であってほしいと願っています。駄菓子屋はその一環で、子どもたちと交流するための仕掛けなんです。

—お年寄りと接することで、子どもたちはどう変わりますか。

認知症のお年寄りらを連れて、幼稚園や小学校を訪問します。ままごとで、子どもたちがみそ汁、ジュースとして差し出す泥水や草を絞った汁を、お年寄りが本当に飲もうとすると、子どもたちがあわてて止めてくれます。驚きながらも、そういうお年寄りもいるんだと理解してくれる。幼い頃から、自然に気付く環境が必要だと思います。

—これから取り組みたいことは。

認知症だから、障害があるからかわいそうだとか特別だとか思わず、皆さんが少しずつ手助けしてくれれば、住み慣れた地域で暮らしていける。自然とそんな機運が生まれてほしい。今月、買い物支援サービスを始めました。地元で日常生活を送ってもらうために、できたらいいなということ形にし、地元の人たちが中心となって取り組む。そのお手伝いができればいいと思っています。

津田由起子（つだ・ゆきこ）

1964年、岡山市生まれ。ソーシャルワーカーとして病院に勤務した後、既存の福祉制度から漏れる障害者らに地域密着型のサービスを提供しようと、96年、当時勤務していた病院の同僚らと3人で「ぶどうの家」を始めた。駄菓子屋は4月1日に開業。原則月～金曜の午後2時から5時半まで。10円から100円の駄菓子400種類以上をそろえ、おもちゃもある。ボランティアを募集している。

【熊本地震】着替えも安心、性暴力被害防止に巡回も…女性目線の取り組み、避難所で広がる

産経新聞 2016年6月12日

避難所に整備された段ボール製の更衣室兼授乳室＝5月15日、熊本市東区

熊本地震の避難所では、男性の目を避ける場所の確保や性暴力防止に向けた巡回など女性に配慮した取り組みが広がった。「将来的には、避難所に女性の目線を取り入れることが当たり前になってもらえれば」と関係者は願っている。

熊本市東区の小学校体育館に整備された更衣室兼授乳室は段ボール製。新潟県の支援団体から贈られた。「使用中」や「空き」を表示する札が付いている。車の中で着替えていたという中学1年の少女（12）は「人の目が気になっていた。これで着替えられるようになった」と笑顔を見せる。

熊本市男女共同参画センターでは職員が避難所を回り、更衣室や授乳室、男女別の物干し場があるかを確認し、女性が安心して過ごせる環境づくりを助言してきた。生理用品を他の物資と一緒に並べたり男性が手渡したりする例もあり、職員の富岡若菜さん（32）は「食料のことが優先され、女性が声を上げにくいと感じた」と話す。

東日本大震災では着替えをのぞかれたり毛布に入り込まれたりする被害が報告されたが、今回、地元の警察だけでなく、全国から派遣された女性の警察官や警察職員約190人が避難所を巡回。熊本県警によると、「女性なので安心して相談できる」「昼間の避難所は人が少なく不安。制服姿の警察官がいると心強い」といった声が女性から寄せられたという。



社説：着実に進めたい i P S 細胞の治療応用 日本経済新聞 2016年6月12日

あらかじめ作って凍結保存した他人の i P S 細胞を難病の治療に使う初の試みを、理化学研究所や京都大学が年内にも始める。再生医療の普及へ向けた重要な一歩で、慎重かつ着実に進めてほしい。

理研などは2014年9月に、世界で初めて i P S 細胞を用いた治療を実施した。本人の i P S 細胞から作った網膜細胞を、目の難病の患者に移植した。細胞の作製や検査に約1年かかり、費用は1億円近かった。

拒絶反応が起きにくい特殊な免疫タイプの人から作る備蓄細胞を使えば、費用は5分の1以下ですむとされる。患者には朗報だ。

課題もある。i P S 細胞は無限に増やせ様々な細胞に成長できる優れた能力をもつ一方、がんになる場合がある。リスクをどう減らすか専門家の意見が割れ、2例目以降の治療が遅れていた。

安全性の確認は時間とコストをかければいくらでも厳しくできる。ただ、がん化のメカニズムが解明しきれていないので、どれだけ調べても100%安全とは言い切れない。ゼロリスクを追求すれば治療は事実上不可能になる。

厚生労働省の研究班はこのほど安全性を評価する基準のたたき台をまとめた。「全員が一致する最終結論には至らなかった」と断り書きしているが、不完全でも研究者がよりどころにできる確認項目を示したのは評価できる。

治療例を積み重ねデータを集めて安全性をさらに高める方法を探りながら、より厳密な基準に上げていくべきだろう。i P S 細胞から作る治療薬の試験に慎重だった製薬企業も、これを機に積極的に取り組んでほしい。

14年の治療の際、i P S 細胞を作った京大の山中伸弥教授は不安で眠れない夜が続いたという。執刀医は「失敗したら社会的に葬り去られる」と恐れた。

失敗が研究者への非難や治療計画の全面停止を招く事態は避けたい。医療の進歩を妨げ国際競争にも取り残されかねないからだ。厚労省研究班が示した項目に沿って安全性を確認した細胞で治療し、なお問題が起きた場合、社会が結果を受け入れる寛容さもある。

医師や研究者は事前に、i P S 細胞の利点だけでなくリスクや安全対策についても患者や家族に十分に説明し、納得してもらうことが大切だ。うまくいかない場合でもきちんと話す。信頼と透明性の確保は治療の大前提となる。

社説 参院選へ 社会保障と増税延期 「安心」への道筋を示せ

毎日新聞 2016年6月12日

安倍晋三首相は記者会見で、世界経済の不透明感を引き合いに出しながら「今そこにあるリスクを正しく認識し、危機に陥ることを回避するため」消費税の10%への引き上げを延期すると説明した。

少子高齢化が進む中で、生活に苦しむ独居の高齢者は急速に増えている。消費税10%時には貧困の高齢者の救済など重要な施策が予定されていた。子育ての充実などへの財源確保もまだめどが立っていない。

今そこにある「暮らしの危機」はどう考えるのか。安倍首相も野党も財源を含めた具体的な政策を参院選で示すべきだ。

困窮の高齢者どうする

医療や福祉の現状に危機感を抱き、生活の安心を渴望する国民は多い。毎日新聞の5月の世論調査では参院選で最も重視するテーマは「年金・医療」が25%で突出して高い。

医療や福祉を充実させるには国民の負担（財源）を増やさざるを得ないが、消費増税に反対する国民感情は強い。政権にダメージを与えるために野党は負担増を批判し、与党は改革を先延ばしする。これが社会保障の充実を遅らせ、ますます国民の不安を高めてきた

原因だ。

そうした泥仕合をやめようと、民主党・野田佳彦政権のときに民主・自民・公明の3党間で成立したのが税と社会保障の一体改革を行う「3党合意」だった。当時の世論調査では3党合意や消費増税に賛成する割合が半分を超えたことが何度もある。政治が決断すれば国民は負担増も支持する、成熟した判断力を持ち合わせていることを示したものと言えるのではないか。

ところが安倍首相は2度にわたって10%への引き上げを延期し、民進党など野党も消費増税に反対した。国民との間で生まれた信頼を再び政治が覆したと断じざるを得ない。

10%への引き上げ延期の影響は大きい。社会保障充実に充てられる財源のうち1兆4500億円のめどが立たなくなった。特に、生活の苦しい高齢者にとって重要な政策が軒並み先送りされる。

年金制度を持続可能にするため、年金財政の状況に応じて給付額を抑制する「マクロ経済スライド」という制度が実施されている。今後は基礎年金の目減りが著しくなる見込みで、低年金者の生活は苦しくなる一方だ。このため、保険料を納めた期間に応じて最大で1カ月5000円の給付金が高齢者500万人や障害者らに支払われることになっていた。この財源5600億円は消費税10%時に確保される予定だった。

また、現在の年金受給資格の期間は25年で、たとえ1年でも満たないと年金を受給できない。受給資格期間を10年に短縮して無年金者を救済するのも消費税10%時の公約だ。300億円の投入で、17万人の無年金者が救済されるはずだった。

現在、市町村住民税非課税の高齢者のうち650万人は介護保険料が軽減されているが、1400億円を投じて新たに480万人が軽減措置を受けられることになっていた。これも先送りされる。

一方、「介護離職ゼロ」「希望出生率1・8」を掲げる安倍首相は、保育士や介護士の待遇改善は優先して実施すると表明している。毎年2000億円が必要となり、恒久財源として消費税に頼らざるを得なくなるとの見方は強い。もうツケ回しできない

政府が閣議決定した「ニッポン1億総活躍プラン」では「すべての人が包摂される社会が実現できれば安心感が醸成され、将来の見通しが確かになり、消費の底上げ、投資の拡大にもつながる」と説明する。

しかし、財源が足りなくなれば、経済成長に貢献できそうにない高齢者の支援は後回しにされ、「すべての人の包摂」も「安心の醸成」も遠ざかる。

消費税を5%から8%へ引き上げた時期は、年金給付の抑制や高齢者医療の窓口負担増とも重なったことで庶民の負担感が増した。そのために、10%への引き上げに反発が強まったのは事実だ。

その年金給付の抑制などは10年近く前に制度化されながら、歴代政権が国民からの批判を恐れて実施できず、先送りしてきたものだ。少子高齢化はその間にも進んでおり、先延ばしすればするほどツケは大きくなっていく。そうした無責任な対応をまたもや政治は繰り返そうとしているのである。

2025年には人口が最も多い団塊世代が75歳以上になる。75歳以上の1人当たりの医療費は現役世代の4倍にも上る。15年には医療費39兆円、介護費10兆円だったのが、25年には医療費54兆円、介護費19兆円にまで膨れ上がると予想されている。

非正規雇用は全雇用労働者の4割を占めるまでになったが、早急に対策を講じないと無年金や低年金の人が激増していくことになる。

与野党は「危機」を共有し、実のある政策論を競い合うべきだ。どうやって国民が安心を実感できるのか、実現可能な政策を正直に示すことが政治に問われている。

アベノミクスをもっと加速するのか、後戻りするのか——。消費増税の先送りを表明した安倍首相は参院選の争点をそう位置づけ、国民に支持を呼びかける。「アベノミクスのエンジンを最大限にふかす」と言う首相。その選択は日本の未来にとって望ましいことなのか。

ひと言でいえばアベノミクスは「前借り」の経済政策だ。空前の規模の金融緩和で消費や投資を刺激し、財政で需要を盛り上げる。カンフル剤の効果はあっても、新しい需要を掘り起こし経済をより強くするわけではない。いわば、将来の需要を先食いしているだけだ。

「前借り」も右肩上がりの時代なら問題にならなかった。だが人口減少社会、低成長時代となれば話は違う。前借りすれば、それだけ将来の景気はさえないものになりかねない。

いま必要なのはアベノミクスの加速ではなく見直しだ。深刻な財政、尋常でない金融政策。これらを早く正常化させなければ、国民は将来もっと重い負担を余儀なくされるだろう。それを避けるために、負担増を受け入れる覚悟が必要だ。

そういう現実的な道を政治がどう切りひらくのか。本来はそれこそが参院選で問われるべきテーマではないか。

■日銀が支える財政

3年半前に誕生した第2次安倍政権は、(1)大胆な金融緩和(2)機動的な財政出動(3)成長戦略というアベノミクス「3本の矢」を掲げた。最初から3本そろっていたわけではない。政権発足前の総選挙で安倍氏が強調したのは「国土強靱(きょうじん)化」のインフラ整備とそれを支えるために「日本銀行に輪転機をグルグル回して無制限にお札を刷ってもらおう」ことだった。

第2の矢を第1の矢で支え、日銀に財政資金を用立てさせる「財政ファイナンス」の構図である。第3の矢の成長戦略は歴代政権の政策と同工異曲で、後で付け足したのが実態だ。

日銀依存は次第に強まった。首相が起用した黒田東彦総裁のもとで異次元緩和に乗り出した日銀は、長期金利を歴史的な低さに抑え、マイナス金利も導入した。大量の国債を買って、政府の借金を支えた。

国の財政は1千兆円超の借金を抱え、先進国で最悪だ。返済と利払いで首が回らなくなってもおかしくなさそうだが、日銀のおかげで金利負担は軽く、新たな借金も楽にできている。

問題は、そんな都合のよい財政運営をいつまでも続けられないのに、財政がそれに甘える構造ができてしまったことだ。

■高まらない成長率

自民党の参院選公約で安倍氏は「まだ道半ばだが、アベノミクスは確実に結果を生みだしている」と自画自賛する。政権発足後に円安と株高が進み、輸出産業を中心に多くの企業の業績が好転した。ちょうど米欧経済の回復期と重なった幸運もあったが、アベノミクスが背中を押したのは事実だろう。

しかし、肝心の日本の実質成長率はきわめて低いままだ。アベノミクスが人々のインフレ期待を生み、物価や賃金を引き上げて経済の好循環を作る——。政権が描くそんなシナリオは実現できていない。

いまの日本には非正規雇用の増加や所得格差の拡大、将来の社会保障への不安といったさまざまな課題がある。それらを解決せずに経済の好転はない。そして、そうした問題を解決する財源は財政健全化なくして生みだせない。増税は景気をもっと良くなってから、という時間稼ぎ論は解にはならない。

政府と日銀がこれだけ日本国債と通貨円をばらまけば、いずれその価値が急落しないと誰が言えよう。この先にどんなショックが待つか、今や専門家ですえ予測不能なのである。

■大手行が国債離れ

最大手の三菱東京UFJ銀行が、国債の安定的な引受先となる資格を国に返上しようとしていることが明らかになった。マイナス金利のもとでは国債を持ち続けても負担になるだけなのに加え、国債相場が急落する事態にも備えた動きと見られている。国債を支えているのは国内投資家だから大丈夫、という見方がいかにもろいものか、改めて思い知らされる出来事だ。

アベノミクスが前借りで得た“時間”は本来、増税や社会保障改革を行って、持続可能な財政に立ち戻っていくために使うべきだった。政権はその時間を空費しただけでなく、一段と財政規律をゆるめてしまった。その象徴が消費増税の再延期だ。

増税も歳出の抑制・削減も確かに不人気政策ではある。それでも子や孫の世代に健全な財政を引き継いでいくことは、国民の代表であるすべての国会議員に託された仕事ではないか。参院選で与野党がそろって消費増税の先送りや断念を主張しているのは、きわめて残念だ。

とりわけ安倍政権の責任は大きい。これ以上将来世代の富を食いつぶすことは許されない。

岡力の「のぞき見雑記帳」 キムチサンド生みの親 ロックヴィラ店主・岩村瑛子さん

大阪日日新聞 2016年6月11日

現在、新メニューを考案中と語る岩村瑛子さん

生鮮食品や衣料を販売する店舗が軒を連ねる鶴橋の商店街。その一角にある喫茶館「ロックヴィラ」は、名物「キムチサンド」を提供するお店である。

魅了する妙味と称され多くのファンに支持されるメニューを考案したのは店主の岩村瑛子さん。23歳の頃、韓国から来日。お金を稼ぐために必死で働く毎日だった。労働ビザの関係で帰国を考えた29歳の時、喫茶店を経営していたご主人とお見合い結婚。3人の子宝にも恵まれた。しかし、結婚からわずか5年でご主人が他界。以後、コーヒーの入れ方さえわからない状態だったが、女手一つで経営と子育ての両立に励んできた。



店名は、名字の「岩村」に由来する。今から20年前、鶴橋の土地柄にあった珍しいメニューを作ろうと自宅にあったキムチをパンに挟んだ。しかし、これが全くと言っていいほどおいしくなかった…。試行錯誤の末、キュウリ、ロースハム、卵、隠し味にマヨネーズを使用する事によりマイルドで子供でも食べる事ができるキムチサンドが完成した。

スタッフからの評判も良くお店で提供すると意外性が受け瞬く間にブームとなった。「いつも食卓にキムチがあったので自然と思いつきました。ご飯との相性もいいのでパンにも必ず合うと信じていました。キムチサンドのおかげで取材が殺到し、テレビには45回も出演しました」とこれまでを振り返る。

そんな岩村さんにはもう一つの顔がある。堺にある特別養護老人ホーム「故郷の家」に20年以上にわたって訪れ、ボランティア活動を続けている。オモニから人のために動きなさいと言われ、その言葉を守りこれまで生きてきた。真心こもった立ち振る舞いと人柄で、今日も多くの人々を幸せな気持ちにしている。

■喫茶館「ロックヴィラ」 【住所】大阪市東成区東小橋3の17の23 【電話】06(6975)0315 【営業時間】午前8時～午後6時半、水曜定休



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行